

平成29年度地域懇談会 結果概要

1 地域懇談会の目的

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び福島県復興計画の推進に向け、各地域で多様な立場の県民の方々から意見を聴取し、その意見を地域別の主要施策(第4章)をはじめ、政策分野別の主要施策(第3章)、重点プロジェクト(第5章)等の進行に活用する。

2 懇談テーマ

- (1)テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など
(2)テーマ2(県全体の課題) 結婚・出産・子育てに向けた課題や取組、方向性など

3 開催地・日時

※出席者の敬称略

開催地域	日時・場所	総合計画審議会 出席委員
(1) 県北地域	<p>[日時] 平成29年7月10日(月)14:00～16:00</p> <p>[会場] 福島県庁北庁舎4階 災害対策県北地方本部室</p> <p>[主催] 県北地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅野 幸子 (特定非営利活動法人コミュニティちゃばたけ 理事長) ・関 奈央子 (二本松市教育委員) ・海老原 嗣 (だて青年会議所 事務局長) ・安齋 さと子 (全国女性農業経営者会議 顧問) ・和合 アヤ子 (福島商工会議所 副会頭) ・菅野 雅博 (大原綜合病院 地域連携相談室長) 	<p>樋口 葉子 委員 (ふくしま子育て支援ネットワーク 代表世話人)</p> <p>森本 恭平 委員 (東日本国際大学いわき短期大学事務・研究員・講師)</p>
(2) 県中地域	<p>[日時] 平成29年7月10日(月)10:00～12:00</p> <p>[会場] 郡山合同庁舎本庁舎3階 第1会議室</p> <p>[主催] 県中地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荻野 育恵 (玉川村地域おこし協力隊) ・設楽 哲也 (設楽農園) ・武田 和樹 (福島県建設業協会青年部田村方部会 会長) ・藤田 浩志 (郡山農業青年会議所 副会長) ・星 昇 (NPO法人湯田組 理事兼事務局長) ・渡辺 さゆり (郡山市片平地区 主任児童委員) 	<p>岩崎 由美子 委員 (福島大学行政政策学類 教授)</p> <p>土屋 繁之 委員 (一般社団法人福島県医師会 常任理事)</p>
(3) 県南地域	<p>[日時] 平成29年7月6日(木)13:30～15:30</p> <p>[会場] 白河合同庁舎 大会議室</p> <p>[主催] 県南地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天沼 芳美 (塙町東河内二区) ・石川 格子 (東陽電気工事株式会社 代表取締役社長) ・若林 誠 (株式会社キャスト 常務取締役) ・小磯 厚子 (NPO法人しらかわ市民活動支援会 おひさまひろば 副代表) ・秋山 健人 (東白川郡森林組合) 	<p>伴場 賢一 委員 (一般社団法人Bridge for Fukushima 代表)</p> <p>瀬田 弘子 委員 (有限会社会津六名館 代表)</p>
(4) 会津地域	<p>[日時] 平成29年7月3日(月) 13:30～15:30</p> <p>[会場] 会津若松合同庁舎 新館2階 大会議室</p> <p>[主催] 会津地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・榎本 千賀子 (金山町教育委員会 臨時職員) ・大堀 満 (株式会社ミンナノチカラ 代表取締役) ・鈴木 サチ子 (特定非営利活動法人 子育てサロン日向ぼっこ 理事長) ・松崎 健太郎 (株式会社おくや 代表取締役) ・目黒 照枝 (木工房MEGURO 代表) ・矢部 佳宏 (西会津国際芸術村 コーディネーター) 	<p>遠藤 由美子 委員 (奥会津書房 代表)</p> <p>伴場 賢一 委員 (一般社団法人Bridge for Fukushima 代表)</p>
(5) 南会津地域	<p>[日時] 平成29年7月20日(木) 14:00～16:00</p> <p>[会場] 南会津合同庁舎2階 会議室</p> <p>[主催] 南会津地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一條 志津子 (社会福祉法人 牧人会発達支援センター みなみあいづ「ひかり園」管理者) ・大竹 友香 (只見町明和振興センター 地域おこし協力隊) ・平野 大地 (民宿「樹林荘」大工) ・星 永重 (湯野上温泉藤龍館 代表取締役) ・湯田 浩和 (株式会社土っ子田島farm 代表取締役社長) ・渡部 安衣 (株式会社マストロ・ジェッペット 営業・事務) 	<p>瀬田 弘子 委員 (有限会社会津六名館 代表)</p> <p>古川 勉寛 委員 (いわき明星大学薬学部 薬学部教員)</p>

開催地域	日時・場所	総合計画審議会 出席委員
(6) 相双(相馬) 地域 (南相馬市会場)	<p>[日時] 平成29年7月11日(火) 13:30～15:30</p> <p>[会場] 南相馬合同庁舎 南庁舎401会議室</p> <p>[主催] 相双地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田 一直 (相馬商工会議所 事務局長) ・佐藤 直行 (ダイコー株式会社 営業事業部長) ・東山 晴菜 (国立大学法人福島大学 特任専門員) ・志賀 友則 (新地町商工会青年部 顧問) ・伊藤 佳枝 (しんちの子育て考え隊 代表) ・三瓶 政美 (社会福祉法人いいたて福祉会 業務執行理事・施設長) 	<p>塩谷 弘康 委員 (福島大学行政政策学類 教授)</p> <p>西崎 芽衣 委員 (一般社団法人ならはみらい)</p>
(7) 相双(双葉) 地域 (広野町会場)	<p>[日時] 平成29年7月21日(金) 13:30～16:00</p> <p>[会場] 広野町公民館 大会議室</p> <p>[主催] 相双地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島村 智子 (広野町放課後子供教室 スタッフ) ・福井 光治 (社会福祉法人檜葉町社会福祉協議会 事務局次長) ・渡邊 雄一 (一般社団法人とみおかプラス) ・渡辺 正 (合同会社かわうち屋 職務執行者) ・吉田 学 (大熊町商工会青年部 副部長、 NPO法人ハッピーロードネット 理事、NPO法人ふるさとテレビ 顧問) ・相楽 比呂紀 (双葉町観光協会、双葉町商工会) ・内海 ひとみ (アスナロ幼稚園 園長) ・下枝 浩徳 (一般社団法人葛力創造舎 代表理事) 	<p>西崎 芽衣 委員 (一般社団法人ならはみらい)</p> <p>和田 佳代子 委員 (いわき地域環境科学会副会長)</p>
(8) いわき地域	<p>[日時] 平成29年7月3日(月) 13:30～15:20</p> <p>[会場] いわき合同庁舎4階 大会議室</p> <p>[主催] いわき地方振興局</p> <p>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛭田 秀史 (いわき農業青年クラブ連絡協議会 会長) ・橘 あすか (いわき商工会議所女性会 会員) ・齋藤 夏実 (社会福祉法人いわき市社会福祉協議会 生活支援課 主任) ・佐藤 毅 (小名浜まちづくり市民会議 会長) ・舘 敬 (特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター 理事長) ・久保木 幸子 (福島県漁協女性部連絡協議会 会長) 	<p>森本 恭平 委員 (東日本国際大学いわき短期大学事務・研究員・講師)</p> <p>前澤 由美 委員 (特定非営利活動法人 いわき緊急サポートセンター 理事長)</p>

4 主な意見等

(1) 懇談テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

No	地 域	発言者	意見等	分 野
1	県北地域	意見発表者	障がいがある児童やその家族が抱える悩みや生きづらさを軽減できるよう児童クラブや相談会を行っているが専門的な知識が必要。研修への参加や専門家への謝金、参考図書の購入など資金の面で課題。	健康・医療・福祉
2	県北地域	意見発表者	地域の魅力の整理と情報発信が課題。地域に魅力はあるがそれを発信するための準備として魅力の整理をすることが必要。また地域の方々がそれぞれにとって望ましい範囲で連携し、情報発信をすることが重要。	観光・交流
3	県北地域	意見発表者	地域の人が当事者となって地域のことを考えることが必要。県民自身に県の在り方や自分の地域について考えるきっかけを与えることが必要。	地域づくり
4	県北地域	意見発表者	現在福島が全国に強く売り出せるものは日本酒。実際に変更しなくてもよいが、県名を「さけしま」として話題づくりをするのもよいのではないかと。	観光・交流
5	県北地域	意見発表者	風評については、韓国など未だに根強い国があり、まだ国内にも食べないという人は一定数いるので、理解ある人に広めていくことが重要。	風評・風化
6	県北地域	意見発表者	移住については、夫はその気でも妻が友達と離れるのが嫌などの理由で断念することが多い。夫婦や家族でも移住できる取組が必要。	定住
7	県北地域	意見発表者	風評被害については自分たちが実際に行き説明しないと分かってもらえない。	風評・風化
8	県北地域	意見発表者	農産物や6次化商品を販売していくには作る人、売る人、発信する人の連携が重要。	農林水産業
9	県北地域	意見発表者	医療・保健については、住民との情報共有が重要であり、正しい情報を正しく受信することが大事。	健康・医療・福祉
10	県北地域	意見発表者	地域包括ケアが進められているが、入院できない患者さんもいるので地域での見守りの体制の構築が必要。	健康・医療・福祉
11	県北地域	意見発表者	人材確保のため看護師や事務職などいろいろな職それぞれの支援制度が必要。	地域づくり
12	県中地域	意見発表者	「ここには何も無い」と地域の方は言うが、外から来た者の目から見ると地域の魅力が多くある。地域の方が自分たちの地域の魅力に気づいていない。	地域づくり
13	県中地域	意見発表者	外から来た人が頼れる地域コミュニティや世話人の存在は移住者等にとって重要。	定住
14	県中地域	意見発表者	地域コミュニティの規模が小さくなってきており、地域の夏祭り等にも若い方の参加が減ってきていることが課題。	地域づくり
15	県中地域	意見発表者	県中地域には空港があるので、LCC等の誘致に力を入れ、交流人口の拡大を図ってみたいと。	観光・交流
16	県中地域	意見発表者	農家の後継者不足が深刻であり、若者が戻って来やすい環境づくりが重要。	定住
17	県中地域	意見発表者	食育のイベントにおいて、農業高校の生徒を講師とし、地域の方に対し農業について伝えたり教えたりする役目を担わせた。その結果、自分たちが学んでいる農業の面白さに気づき始めた生徒もいたため、地域とのつながりや連携は重要。	農林水産業
18	県中地域	意見発表者	異業種の方と交流することにより、自分自身の仕事を理解することができ、また各事業者の相互理解が進むので、異業種の交流の場は重要。	産業・雇用
19	県中地域	意見発表者	建設業では、技術者・技能者の高齢化が進み、将来の担い手確保がここ数年の課題。労働環境の改善や人材育成に取り組み、「夢のある産業」として魅力を高め、担い手を継続的に確保することが必要。	産業・雇用

20	県中地域	意見発表者	若い世代に対し建設業に興味を持ってもらうため、中学生を対象とした「体験型現場学習会」を開催している。このような取組が将来の担い手確保につながると思う。	産業・雇用
21	県中地域	意見発表者	福島県産品を取り扱ってきた店舗等が震災後、他県産品を取り扱うようになり、その産地との関係性が構築された。他県産に取って代わった店舗の棚を福島県産品が取り戻すためには、単に安全性をPRするだけでなく、その他の何か(付加価値)もPRしなくてはならない。	農林水産業
22	県中地域	意見発表者	情報は発信者によって受け手の受け止め方が違う。受け手から見て身近な存在である人の情報は信用される。逆に遠く存在である国、有識者、行政等の情報は信用が薄い。よって、地域の方への情報発信というのは重要。	風評・風化
23	県中地域	意見発表者	再生可能エネルギー(バイオマスや地熱)を活用した地域づくりによる地域振興を進めていくことが必要。	地域づくり
24	県中地域	意見発表者	震災以降、避難していた方が戻ってきているので、親子と一緒に活動できる事業を充実させていくことが必要。	教育
25	県中地域	意見発表者	地域のボランティアがなかなか育たないのが課題。PTA活動等で地域のボランティアの担い手としての親を育て、その親の活動を見ながら子が育ち、やがて子が親となり地域のボランティアとして活動するといった地域循環型ボランティアが定着することを願っている。	教育
26	県中地域	審議会委員	県外へ情報発信することも大切だが、自分の足元である地域コミュニティという小さな世界の中で顔が見える関係性をどのように構築していくかが重要。	風評・風化
27	県中地域	審議会委員	地域おこし協力隊など県外から来ている方が任期終了後に県内に定着してもらうためにはどうするのかを考えなくてはならない。	定住
28	県中地域	審議会委員	地域づくり等の現場主義の研究者の支援も考える必要がある。	地域づくり
29	県中地域	審議会委員	空港の利活用は県をあげて何とかしなくてはならない。	観光・交流
30	県南地域	意見発表者	自分達の地元には「何もない」と思っていたが、地域を見直すと、様々な資源があることに気付いた。	地域づくり
31	県南地域	意見発表者	地域の資源を利用して交流人口を増やしたいと考えているが、情報発信力がない。	観光・交流
32	県南地域	意見発表者	高校生や大学生が就職する場合、大企業や、給料が良い企業等条件面から判断するため、既存の中小企業や地域に根ざした企業に地元の生徒を入れようとしても、雇用できないという問題が出ている。	産業・雇用
33	県南地域	意見発表者	インターンシップの受け入れを通じて、これから人生設計を考える子ども達に、地域産業や地域企業をアピールしつつ、仕事を体験し、考えてもらうことが大切だと感じた。	産業・雇用
34	県南地域	意見発表者	福島県出身で県外に出た学生を、県内の企業に就職させるため、Fターンインターンシップ等、県の支援を活用しながら、企業も、学生から興味をもってもらえるような取組を行いたい。	産業・雇用
35	県南地域	意見発表者	福島県内の製造業をしっかりとブランディングすること。そして、国内展示会、海外展示会に使用できる補助金を充実、連続して確保し、農業や医療だけでなく、工業も、県外、海外に向けてアピールする場を作る。そうすることで、若い人材の確保、雇用拡大に繋がる。	産業・雇用
36	県南地域	意見発表者	数万人が来場する東京の展示会において、福島県としてブースを確保し、企業をまとめてほしい。まとめてアピールすることで、効果が大きくなる。	産業・雇用
37	県南地域	意見発表者	県が産業用ロボットの革命の地を目指し、ロボットで売っていくのであれば、今年12月の国際ロボット展に県として出展し、アピールすることが大事だと思う。	産業・雇用

38	県南地域	意見発表者	白河市は、幼稚園、保育園、認定子供園など多種多様なものが用意されていて、子育て面で充実しているように思われるが、子育て支援コーディネーターのような人が不足していると感じる。	結婚・出産・子育て
39	県南地域	意見発表者	白河市と、塙町や棚倉町では、ニーズが全然違うと思う。他地域で騒がれていることが、自分達にも必要なのか考える必要がある。同時に、不足を補うために、行政区を超えた繋がりも大切になると思う。	結婚・出産・子育て
40	県南地域	意見発表者	結婚や出産に対するハードルを下げることと、子育て支援を充実することは、方向性が違うのではないかと感じる。	結婚・出産・子育て
41	県南地域	意見発表者	県南地域は転勤族が多いが、首都圏から転勤してきた家族は、これまで公共交通機関を使用してきた方が多いので、そこでつまづいてしまうのではないかと。	インフラ復旧・整備
42	県南地域	意見発表者	使用されていない自治会館が多いと思うので、オープンにし、様々なサークルが活動し、異年齢が集える場所にするような工夫をしてはどうだろうか。	地域づくり
43	県南地域	意見発表者	女性が働くように言われているが、子供が預けられない地区がある。また、預けた場合の補助額と、自分で子育てした場合では、どちらが税金のためなのか悩む。自分で子育てをしたい人は、家で子育てし、子育てに向いていないと思う人は、仕事をする。今は「女性も仕事をしよう」に流されていると感じる。	結婚・出産・子育て
44	県南地域	意見発表者	自分は東京出身だが、この地域にはとても良いところがあると思う。良いところへの気づきができれば、毎日楽しく生活できると思う。そういう人が増えるような場所であつたら良いと思う。	地域づくり
45	県南地域	意見発表者	自分は、家業を継いだのだが、それを子供達に繋ぎたいと思っている。今後、どうしたら子どもがここに魅力を感じて戻って来てくれるかということを考えたい。先祖代々受け継いできているものを、次に繋げることが自分の使命だと考えている。	定住
46	県南地域	意見発表者	昔は、農業など家で親が働く姿を子どもが見て、そうなりたいと思える機会が与えられていたが、今は、会社や役所に行ってしまう、子どもが仕事を想像する機会がない。インターンシップや、体験する機会を増やすことは、白河に戻ってきてもらい、白河で仕事をしてもらうのに良いと思う。	定住
47	県南地域	審議会委員	地元の資源を見つめ直し、むやみに作ったり、余所からもってくることはしないということはとても大事なことで。しかし、なかなかできないことでもある。	地域づくり
48	県南地域	審議会委員	自分はIターン者で南会津に25年住んでいるのだが、毎日美しい風景を見て、感動している。そんな我々が情報を発信するのが良いのではないかと感じた。	地域づくり
49	県南地域	審議会委員	世の中は、大企業に弱いですが、実際は中小企業が集まって力を合わせている。そのことを忘れてはいけません。	産業・雇用
50	県南地域	審議会委員	美しい森や山をつくり、それを作るために大人が努力している姿を子どもに見せてほしい。	結婚・出産・子育て
51	県南地域	審議会委員	白河地区や相双地区、福島地区など、個々の地域産業の技術は非常に高いので、集約した方が良いと思う。	産業・雇用
52	県南地域	審議会委員	人口流出のポイントとなる15歳～19歳、その次の世代の20歳～24歳の流出が一番高いため、歯止めをかけることが必要。	定住
53	県南地域	審議会委員	どのような人材を地域で作るのか、総合的な戦略が必要。	地域づくり
54	県南地域	審議会委員	10年後、20年後を見据えた施策が必要。	その他
55	県南地域	審議会委員	県南地域の本当の資源とは何か。森林が資源だと言うのであれば、その理由を本気で考えてもらいたい。	その他
56	会津地域	意見発表者	地方は、自分たちのことを過小評価していると感じる。そこにしかないものを一番の価値として、まず出していくべき。都会の価値観を評価軸にするのではなく、地方が評価軸を作り出していくといった、価値の転換を起こしていければ良い。	地域づくり

57	会津地域	意見発表者	高校生の「一回は東京に出たい」、「一度は地元を出たい」気持ちを止めることは難しい。そのため、地元を出た方が5年後、10年後に、もう一度戻って来たいと思える取組が必要。	定住
58	会津地域	意見発表者	子どもたちは、客として接する職業以外、会津にどのような仕事があることを知らないと思う。また、進学等は親の影響が強いため、小、中学校の時から、親が会津にどのような仕事があるかということを伝えていかなければならないと思う。そのためには、学校を核とした地域創生ということが必要になってくると思う。	産業・雇用
59	会津地域	意見発表者	補助金や助成金は、取り方を知っている企業だけが取っていると思う。取り方や使い方の分からない企業への支援も必要ではないか。	産業・雇用
60	会津地域	意見発表者	情報発信の方法が変わってきている。SNSなど様々な方法があるが、伝えたい人に直接アプローチする方法を選んでいく必要がある。	風評・風化
61	会津地域	意見発表者	お母さんたちの子育ての悩みに寄り添うことで、子育てが楽になり、子どもを産み育てようかという感覚が広がってくると思う。	結婚・出産・子育て
62	会津地域	意見発表者	地元には専門の小児科医がおらず内科に行くが、2～3週間で治らず、若松や郡山の小児科へ行く頃には重症化になることが多い。お母さんたちからは、週に1～2回でも良いから町に専門の小児科医がほしいとの意見がある。	結婚・出産・子育て
63	会津地域	意見発表者	子どもの預かりなど、お母さんが2～3時間でも働いていけるような取組が必要。	結婚・出産・子育て
64	会津地域	意見発表者	縮小した暗い現実ではなく、明るく楽しく夢のある未来を見据えた10年ビジョンを描いていくことが必要。また、そうしたビジョンを関係者間で共有していくことが大事。	産業・雇用
65	会津地域	意見発表者	世界から会津にどのように来てもらうのかを含め、会津大学など、様々なところと連携し、いかに面白く世界に発信していくかが大事。	観光・交流
66	会津地域	意見発表者	ヨーロッパなどの新しい農業技術を学び広めていくことにより、訪問型の観光ができると思う。企業は見せる化によって、交流人口を増やすことも必要。	観光・交流
67	会津地域	意見発表者	住んでいる人たちが魅力的だと思える地域づくりをしていく必要がある。幸福度という意味で、住民が地域を見つめ直し、何が幸せかを話し合いながら地域づくりを進めていければ理想的だと思う。	地域づくり
68	会津地域	意見発表者	見渡す限り山であるが、地元の木が使われていない。産業として成立させていくためには、木材を使うことに対する支援が必要。	産業・雇用
69	会津地域	意見発表者	過疎地域での起業に対して支援が必要。企業誘致ではなく、自分たちで仕事を起こすということが自立した地域を作っていくヒントになると考えている。	産業・雇用
70	会津地域	意見発表者	親世代がもう一度勉強し直すのも大切であり、市民レベルで哲学的なことを一人一人が持つことも大事だと思う。	地域づくり
71	会津地域	意見発表者	会津は千葉県ほどの広さがあるが人口密度が低い。これは価値であり、これほど昔ながらの風景が多く残っているところはあまり多くないと思う。	地域づくり
72	会津地域	意見発表者	田舎の文化は素晴らしいが、熊、猿の影響により活動が制約されている。また、昔からの自然に対する価値観や考え方などを受け継いできた世代が亡くなってきている。	地域づくり
73	会津地域	意見発表者	会津の風土、風景と言えば雪国であること。会津の発酵文化や昔ながらの知恵、これらは雪国で冬の間閉ざされることによって、創造力が増して知恵になるわけであり、誇りのはずである。	地域づくり
74	会津地域	意見発表者	景観を大切にすることがコンテンツになる。景観を守るためにはコントロールが必要。	地域づくり
75	会津地域	意見発表者	会津の地域資源を使った取組を行う際、規制や障害となることがある場合には、チャレンジしやすい状況となるよう支援してほしい。	地域づくり

76	会津地域	意見発表者	6次化に関して単年度で終わる補助金が多い。開発、販路拡大、営業まで継続的に支援してほしい。	農林水産業
77	会津地域	意見発表者	会津の観光は100%イベント型であると思う。戊申150年、その前は八重で、会津地方はそれ一色となり、他の観光地は全部埋もれてしまう。二次的あるいは埋もれている所へ誘導する仕組みが必要。	観光・交流
78	会津地域	意見発表者	地元の人が地元の観光をしていないことが多い。地元の人が地元を知ることが、実は観光の一番最初のスタートではないかと思う。	観光・交流
79	会津地域	意見発表者	会津の基礎的な文化は大変重要。指標化しにくい価値をいかに守るかが行政の役割ではないかと思う。行政機関は文化や守るべきものを守り、観光等を進める場合は、民間との役割分担などを明確にする必要があると思う。	観光・交流
80	会津地域	審議会委員	只見線は巨額な投資をして恒久的に守り続けることが果たしてできるのだろうか。 反発を持っている方、代替する様々なアイデアを持っている方がいたが、全く目が向けられなかった。インバウンドは本当に続くのか。インバウンドでこの路線を確保することは可能なのか。先を見通せない状態で、巨額の投資、目先の観光にとらわれていないだろうか。	その他
81	会津地域	審議会委員	子どもの頃から、地域で生きるための教育をきちんと行う必要がある。	教育
82	会津地域	審議会委員	観光で人を呼ぶのではなく、いかにして地域を豊かに閉じていくか、食料も水もエネルギーも、そして物も、地域の中で循環させる仕組みを作ることを行わなくてはならない。そうしなければ、小さな町村や小さな集落は全部切り捨てられてしまう。	地域づくり
83	会津地域	審議会委員	只見線の沿線だけを見ても、自然や風景を維持することが、困難になっている。荒廃した山が沿線の生活圏に近接し、土砂崩れが起きれば生活圏を脅かすような状況。只見線の不通区間の線路脇では土砂崩れが増えており、線路下が抜けている。	その他
84	会津地域	審議会委員	3.11を経験している福島県だからこそ、例えば、某国のミサイル攻撃にダムが狙われることなども、起こり得る事態として想定しなくてはいけない。そういった備えがあってはじめて、観光や地域をどのように運営していくかということになる。	その他
85	会津地域	審議会委員	猿も熊も山の荒廃による。人間がなしたことであり、猿や熊のせいにするべきではない。	その他
86	会津地域	審議会委員	これからの観光は、箱形ではなく、コンテンツ型であり、我々が見逃しているようなコンテンツを見い出して、それを徹底的にブラッシュアップしてリピートしてもらう仕組みが大切。会津はそれができのに磨ききれていない。県としても、もう少しコンテンツ磨きに力を入れていくべき。	観光・交流
87	会津地域	審議会委員	高校生たちが憧れるのは、やらない理由を考える大人ではなく、やれる方法を考える大人。ここには魅力がないと思っている大人が多いということを、反省すべき。	定住
88	会津地域	審議会委員	一度県外に出た高校生とも、「地域で何が問題になっているのか」、「地域がどのような状況になっているのか」などの情報を共有する仕組みが必要。	定住
89	会津地域	審議会委員	一度地元を離れた方であっても、帰ってくるタイミングがあると思う。そのタイミングを逃さないための総合的な仕組みが必要。	定住
90	会津地域	審議会委員	地域別計画は、会津地方のオリジナリティや他の地域に先んじることを盛り込む必要があるのではないかな。 また、一つ一つの施策が5年後にこういう実をつけ、10年後にこういう花をつけ、15年後にどういう種になり、20年後にこういう社会に変化するということが、語られるべき。	その他

91	南会津地域	意見発表者	南会津地域は寒暖の差があるため、おいしい農産物がとれ、発色のよい花が育つ。これからは出荷するばかりでなく、人が来て体験してお金を落としていくというサイクルで稼げる農業を目指していきたい。	農林水産業
92	南会津地域	意見発表者	南会津にこれだけ木工資源があるという知識がなかったが、一旦東京に出て外からみるとあらためて気づく部分がある。技術の高い職人も多く、木工のもののづくりの能力の高さをあらためて理解した。	産業・雇用
93	南会津地域	意見発表者	幼い頃に学校の職場体験などで、地元の産業をもっと知る機会があれば、Uターン就職の選択肢も増えるのではないかな。	産業・雇用
94	南会津地域	意見発表者	伝統芸能の檜枝岐歌舞伎は後継者不足の問題があり、入口の部分が課題。村では中学校の文化祭で歌舞伎をやっており興味を持つ人が増えていと思うので、このような取組を続けてほしい。	地域づくり
95	南会津地域	意見発表者	日光にはたくさんのお客様が来ているので、そのお客様に会津にも来てもらい、日光・会津圏域で宿泊圏を形成していければよい。	観光・交流
96	南会津地域	意見発表者	特急リバティが開通したのはよいが、利用者が想像より少ない。原因のひとつに車内販売がないことがあると思うので、日本酒のプロモーションも兼ねて車内販売を行ってはどうかな。	観光・交流
97	南会津地域	意見発表者	ユニバーサルデザインの標記について、パラリンピックに目を向けて、エリアとして拡がりを持って今から取り組んでいけば、将来的な外国人や高齢者の集客に繋がるのではないかな。	観光・交流
98	南会津地域	意見発表者	南会津地域は新緑や紅葉の色が深く、日本でいちばん四季の色味が濃い地域である。	観光・交流
99	南会津地域	意見発表者	いきなり移住をして商売を始めるというのはハードルが高いので、例えばこういう商売をやってみたいとチャレンジする人向けのスタートアップ制度があればよい。	産業・雇用
100	南会津地域	意見発表者	会津にはたくさんの歴史と伝統産業があるので、それらをお金に換えるための見せ方やブランの出し方がこれから必要になってくる。	観光・交流
101	南会津地域	意見発表者	小さい頃から地元をよく知り、一旦出ていったとしても安心して戻ってこられる安心感があることが大切。	定住
102	南会津地域	審議会委員	人口が少なく、活用できる資源も少なく、雪が降るため活動時間も少ない当地域には、異業種連携が必要である。東西南北に視野を広げて活動してほしい。	産業・雇用
103	相双(相馬)地域	意見発表者	観光では、旅館に宿泊していた除染作業員が引き上げ、観光客に頼る本来の事業に戻っているが、松川浦や海苔などの観光資源がまだ回復していない。観光の復活が重要。	産業雇用
104	相双(相馬)地域	意見発表者	復興公営住宅について、全体4,890戸計画のうち3,499戸が完成し、残りの整備を進めているが、入居予定者はいるのか、整備する必要があるのか。	子育て
105	相双(相馬)地域	意見発表者	仮設住宅から公営住宅に入居したことによって、仮設住宅では受けられた支援が、転居によって受けられないことがあるとの話を聞く。独居者が多いためコミュニティ支援が必要。 支援員の不足がハードワークとなり、離職に繋がっている。コミュニティ再生という仕事内容からすれば、現在の待遇は低く、適切な待遇とすれば人は集まると思う。	Uターン
106	相双(相馬)地域	意見発表者	新生プランでは、人と地域、活力、安全と安心と記載しており、夢や希望の持てる社会は分かるが、それに対して何か行動を起こすきっかけを考えているのだろうか。 行政と民間ではできることに違いがあり、民間と合わせて一緒に歩めればいい福島ができるのではないかなと思う。	地域づくり
107	相双(相馬)地域	意見発表者	「キッズ耕すプロジェクト」により農業育成に取り組んでいる。町の高齢者は、後継者、耕作問題を抱えている。小学生を対象に田植え体験、おにぎり作り体験をした。小さな活動ではあるが輪が広がればと思い活動している。活動に対して行政からのアプローチがあるとよい。	農林水産業

108	相双(相馬)地域	意見発表者	復興事業は忙しいと思うが、復興需要が終わった先の未来を見据えることが必要。 商業施設等のハードは行政がつくり、民間企業が運営するようなすみ分けをした方がよいのではないかと。計画構想の段階から、民間の発想力と行動力を活用し、取組を進めて行くことが大切。	地域づくり
109	相双(相馬)地域	意見発表者	津波被災により、町内の集団移転地域に住んで2年になるが、コミュニティ構築が難しい。音頭を取る人が必要であり、大きな集団移転地域には交流員がほしい。	避難者支援
110	相双(相馬)地域	意見発表者	児童クラブの補助員をしているが、放課後の学童クラブ保育士が不足しており、常時募集している。クラブ補助員の時給が仕事内容の割に賃金が安いことから、県全体として賃金引き上げをして貰えればと思う。 保育士が確保できれば、待機児童も減少するのではないかと。地元の待機児童はゼロだが、保育所の段階で断られた人が手続きをしていないこともある。	結婚・出産・子育て
111	相双(相馬)地域	意見発表者	子どもの遊び場づくり、公園づくりを検討しているが、県から支援制度や設置に向けて助言があれば有り難い。	結婚・出産・子育て
112	相双(相馬)地域	意見発表者	地元産婦人科がなく、近隣自治体の産婦人科を選択することになるため、いざという時に不安を感じる。産婦人科医師の確保や小児科も整備してほしい。医療施設が充実すれば安心して子育てができる。	結婚・出産・子育て
113	相双(相馬)地域	意見発表者	来年4月の認定こども園や小中学校のオープンに向けて準備をしている。仮設学校にはかつての3割程度の地元出身の子どもがいるが、再開した時にどのくらいの子どもが戻るか不安。	結婚・出産・子育て
114	相双(相馬)地域	意見発表者	インフラ整備として道路問題がある。県道12号線原町川俣線や国道114号線はこれからフレコンバック輸送のメイン道路となるが、道路の耐久性は大丈夫なのか。トンネルやバイパスへの右折レーン整備の話があるが、通勤道路であり交通渋滞が考えられるため、早急な対応が必要ではないかと。	インフラ復旧・整備
115	相双(相馬)地域	意見発表者	相馬福島道路、県道12号線、国道115号線を縦に繋ぐラインがないため、佐須地内から115号へ繋がるトンネルがあるとよい。	インフラ復旧・整備
116	相双(相馬)地域	意見発表者	介護人材が不足しており、相馬地域にも介護人材育成の学校が必要。また、介護教育を考えれば、幼少期からの老人対応が大切。	健康・医療・福祉
117	相双(相馬)地域	意見発表者	2年の間で大雪3日、大雨2日により施設に来れない日があった。施設は365日生活している。職員がいつでも施設に来られるよう、道路の縦ラインを整備し、どこ地域からも村に入れる路線計画をしてほしい。	インフラ復旧・整備
118	相双(相馬)地域	審議会委員	コミュニティ再生が大きな問題であり、キーとなる支援員をどう確保し、育て、どう支援していくことが今後の課題。支援員の強い思いを受けながら寄り添う仕組みが必要と感じた。	地域づくり
119	相双(相馬)地域	審議会委員	大学には、県全体、相双が魅力ある地域になることへの支援の役割がある。福島に戻るなど外から来る人の確保が県全体の大きな課題であり、継続して取り組んでいく必要がある。	地域づくり
120	相双(双葉)地域	意見発表者	子供たちは3年前まで、スクールバスでいわき市から1時間半の通学していた。当時は学習をしていても子供は気持ちに落ち着きがなかった。3年が経って、町に大半が戻り、地元から通学していることで、子供の状態が落ち着いていると感じる。	教育
121	相双(双葉)地域	意見発表者	夏に絆交流会イベントがあり、友達と会えるイベントのため中学生も楽しみに待っている。相双地方の学校間の交流事業がなく、以前のように小学校3校での陸上大会や音楽祭が復活すれば、子供の交流が深まると思うので、そのような機会づくりが必要。	教育
122	相双(双葉)地域	意見発表者	医療人材確保に関しては、住居確保が課題。新築物件は家賃が高いため、いわき市から通勤するようになり通勤時間がかかる。常磐自動車道の4車線化よりも国道6号の整備にすれば通勤が楽になる。地域で働く人の多くはいわき市から通勤しており、国道6号の整備が必要。	インフラ復旧・整備

123	相双(双葉)地域	意見発表者	地元で透析治療する病院がなく、患者はいわき市まで行かなければなら ず大変である。	健康・医療・福祉
124	相双(双葉)地域	意見発表者	除染作業などに伴い、地域外から多く人々を受け入れており、夏休みに 子ども1人を家に居させることが不安。子どもが元気に遊べる環境が必要。	教育
125	相双(双葉) 地域	意見発表者	帰還したが地元は高齢者ばかりで子供がいない。病院、歯医者もなく、通 院もいわき市まで通うことになるため不便を感じている。	健康・医療・福祉
126	相双(双葉) 地域	意見発表者	帰ろうという気持ちでハウスクリーニングをしても、除染関係など知らない 人が多く怖いという理由から戻らないという人や、ここには住めないという人 もいる。警察などのパトロールだけでは不安を持っているのが現状。	避難地域
127	相双(双葉) 地域	意見発表者	国道6号も高速道路も朝晩混雑する。	インフラ復旧・整備
128	相双(双葉) 地域	意見発表者	若い人が住んでいないのが不安であり、何かあった時の対応が出来な い。	避難地域
129	相双(双葉) 地域	意見発表者	元の生活に戻すことは不可能と思う。それよりも新しい生活として、住んで 良かったと思う地域づくりに目を向けていかなければならない。	地域づくり
130	相双(双葉) 地域	意見発表者	医療では働く人がいない、住居がないのも現実であるが、その課題を乗り 越えてくる人がいない。他より一歩先を行った取組により、ここに来れば何 かできる、というような人が集まる発想への転換必要。	避難地域
131	相双(双葉) 地域	意見発表者	教育、学習環境では、この地域ならではの教育をしなければいけない。こ の地域でものを学ぶこと、将来、上を目指す子供を育てていきたい。全てに おいて、その場しのぎの施策となっている。全国から見ても、この地域では 何かありそうだという事業取組をしてほしい。	教育
132	相双(双葉) 地域	意見発表者	今は復興需要があり、大手ゼネコンの下請けや、商業では物販できるが、 いつまで続くか不透明。復興需要が終わった時にどこで、どのように生計を 立てるのが課題。	産業・雇用
133	相双(双葉) 地域	意見発表者	補助金の手続きについて、申請から採択、運営まで2～3年かかる状況。 土地確保も難しい。双葉地域で工場建設を考えても宅地であったり、農地 転用が必要な農地などで適地がない。	産業・雇用
134	相双(双葉) 地域	意見発表者	ミドリムシを使いジェットエンジン燃料を生産する企業があるので、研究室 などを誘致したい。その他にもロボット産業や中間貯蔵施設のロボットに興 味のある企業があり誘致したいが、土地問題と避難解除がなされていない ため難しい。	産業・雇用
135	相双(双葉) 地域	意見発表者	地元の復興委員会で話をしていると事業再開は5年後ぐらいかと感じる。 大きな会社は資金と人材があり、他の地域で事業再開している。小さな事 業者は元々の土地か土地が購入できれば他の地域でもやりたいと言ってい るが、事業再開の補助金がいつまで続くのか不安を持っている。地元の 避難指示が解除になるまで制度を継続してほしい。	産業・雇用
136	相双(双葉) 地域	意見発表者	住民同士の交流維持は大切であり、ふたばワールドなどの交流事業を今 後も継続してほしい。	避難地域
137	相双(双葉) 地域	意見発表者	観光と経済は密接であり、アーカイブ施設と観光を一緒に考え、全国から の観光客を県全体での広域観光に組み込むことが必要。	観光・交流
138	相双(双葉)地域	意見発表者	国道6号4車線化のほかに国道288号、国道114号の整備も併せて進め てほしい。	インフラ復旧・整備
139	相双(双葉)地域	意見発表者	行政の仕事は町、県、国管轄と分かれていて、どこに相談すればいいか 分からない。	その他
140	相双(双葉)地域	意見発表者	子供が戻るのは最後であり、その前に若い人が戻らないといけない。その ためにはどうしたらよいかを考えないといけない。	避難地域
141	相双(双葉)地域	意見発表者	帰町宣言とは何か。みんなが住める環境が整った時点でするべきもので はないかと思っている。復興住宅も帰町宣言に併せて地元に住めますとい う条件があれば帰ってくるのだが、町外に災害復興公営住宅などが出来て いるので、住民が戻るのか疑問。	避難地域
142	相双(双葉)地域	意見発表者	近所に除染作業員への不安やイノシシが怖くて帰れない話を聞く。	避難地域

143	相双(双葉)地域	意見発表者	解体されていない家や、更地などを多く見ると帰って来る人がいるのか不安になる。解体は自治体ができることなのか、国の補助がないからやらないのか、一般の人は分からない。	避難地域
144	相双(双葉)地域	意見発表者	津波で流された地域に慰霊碑がある。流された家屋や地域ジオラマ制作などで地域の現状を後世に残したいが、どこへ相談すればいいのか。	避難地域
145	相双(双葉)地域	意見発表者	高速道路の無料化継続を要望する。避難先から地元まで高速料金が発生すると住民が帰ってこなくなる。	避難地域
146	相双(双葉)地域	意見発表者	プランの面では行政は十分やっていると思う。行政はハードを整える点で取り組んでいる。双葉郡全体で見ても民間ではできないJR復旧、高速道路整備など平成24年度以降大変な中でやってもらっている。 行政の出来ない範囲や行政では手を出せないもの、例えば、小さな動きのもの、個人の動き、前例のないもの、スピード感的なものは出来ないもので、民間との役割分担が必要と考える。	その他
147	相双(双葉)地域	意見発表者	地域としてどう生き残るのかを考えれば、資源をダブらせないこと。双葉8町村は資源が似ているため、内部と外部の両方の視点が必要。	避難地域
148	相双(双葉)地域	意見発表者	農村の魅力などで、沿岸部や山間部などトータル的に周遊・宿泊できる仕組みが必要。	観光・交流
149	相双(双葉)地域	意見発表者	福祉分野、商工業の全体を応援しつつ、地域全体をまとめる地域コーディネーターがいるとよい。他の自治体では年収800－900万円を支払い第一線で働いた人をプロデューサーとして配置しているところもある。双葉郡の北、南のほか、沿岸部、山間部に各1名配置するぐらいのことをしなければいけないと思う。	地域づくり
150	相双(双葉)地域	意見発表者	民間やNPOをサポートしているが、組織運営が出来ていない。情報が集まり支援メニューを教えられるような行政書士、弁護士、経営コンサルなどがある拠点があるとよい。	その他
151	相双(双葉)地域	意見発表者	官民合同チームの存在を知らない方もおり、農山村の方は官へのアレルギーやコミュニケーションが苦手な方もいる。官民合同チームまで繋ぐ方が必要。	避難地域
152	相双(双葉)地域	審議会委員	学校が再開し、子供の元気・活力が町の雰囲気を変えており、復興の重要な要素である。新しい教育も大事であるが、子供と地域が関わり、子供を大切にする地域にすることも大事だと感じた。	地域づくり
153	相双(双葉)地域	審議会委員	津波被災状況を後世に残すことが大事あり、そのためには、震災前の状況を残すこと、今を残すことが必要だと思う。	避難地域
154	相双(双葉)地域	審議会委員	アーカイブ施設が1つの町内で完結することなく地域に役割を分担させることが重要であり、そのためには地域をコーディネートする方を配置することが今後は必要。資源活用が町村で重複しないよう、先を見据えて計画をつくるのが大切だと感じた。	避難地域
155	相双(双葉)地域	審議会委員	双葉地方は復興が進んでいる中で、新たな課題があると感じた。双葉地方は原発事故被災地で特異な状態におかれている。その中でも相互に連携が必要と感じる。復興が加速するよう多くの機会をつくり県も努力して復興を進めてほしい。	避難地域
156	いわき地域	意見発表者	観光いちご園の入れ込み数は回復しつつある。一方、原発の風評と思われる影響により、小松菜に関しては、値段は安定しているものの高値で取引されることがないのが現状。	農林水産業
157	いわき地域	意見発表者	農産物について、今は原発事故の風評に対する補償を受けているが、将来的に打ち切られるのが目に見えていることから、付加価値のついた野菜作りや他業種との連携等、補償に頼らない経営が必要。	農林水産業
158	いわき地域	意見発表者	新規就農志願者に度々会うが、原発事故による風評被害が未だ長引いているため断念する人が多い。就農した場合でも、やりきれなくなりやめていく方がいる。	農林水産業
159	いわき地域	意見発表者	定年を迎えた方達が趣味で野菜を作り、直売所で安く売ることによって、本気で良い物を作ろうと就農する人が、安値競争により収入の確保ができにくいのが現状。対策があれば就農者が増えると考え。	農林水産業

160	いわき地域	意見発表者	【創業後企業支援の強化】 創業支援に対して、創業後企業支援が手薄い。福島県で起業した会社の5年後、10年後、15年後の存続について、ヒアリングや統計を取り、企業の規模に応じて、何が課題となって存続率が低いのか把握していただきたい。そこに企業だけでは解決できない問題もあると思うので、課題解決へのバックアップ、支援をお願いしたい。	産業・雇用
161	いわき地域	意見発表者	【零細企業支援】 小規模零細企業は社長自身が本質の事業をはじめ、会計から営業等の全てこなさないといけない面も多々ある。やるべきことに集中できるよう、企業自体の実力が上がるような取組支援として、助成金相談の強化・専門家とのマッチング・補助金申請等、事務処理の手間を極力かけず、零細企業が申請しやすい手続き等への対応を強化して欲しい。	産業・雇用
162	いわき地域	意見発表者	【創業後企業支援の強化】 今、創業後の企業へ投資することで、将来の雇用や納税の部分で貢献できる企業を増やしていくという意味でも、創業支援のその先、5年後10年後の存続に向けた支援を極めて強くお願いしたい。創業自体に力を入れるより、自力で創業した企業により注力することで、企業の雇用や納税を上げ、福島県に貢献できる迅速な政策に繋がる面があると思う。創業後5年10年の企業へ向けた強い支援をお願いしたい。	産業・雇用
163	いわき地域	意見発表者	【女性活躍推進】 国政及び県政でも、女性活躍推進をうたっていることにに対し、女性経営者や女性の多い職場に対する支援策について、実際にヒアリング等の調査を実施し、県内女性経営者、女性起業家、女性有職者が活躍できる施策についての検討を進め、支援策を具現化、実施してほしいと強く願う。	産業・雇用
164	いわき地域	意見発表者	東日本大震災で被災された方の生活再建が進む一方で再建に至らない世帯も多くある。そういった世帯は被災をしたという理由だけでなく、住宅・経済・健康・家族間の問題等抱えており、今まで被災の中で見えていなかった問題がより細かく具体的な問題となって見えてきているという印象。	健康・医療・福祉
165	いわき地域	意見発表者	震災から6年ということもあり、震災直後に多く入っていたNPO等被災者支援団体が徐々にいわきから撤退してしまうということも最近は見えているため、やはり頼みの綱は行政だと思っている。	健康・医療・福祉
166	いわき地域	意見発表者	東日本大震災で被災された方の生活再建によって、新たなコミュニティの設立が課題となっている。	健康・医療・福祉
167	いわき地域	意見発表者	いわき市内の県営復興公営住宅の完成入居状況は全体の半分位だと思うが、いわき市営災害公営住宅は全て整備されH29年1月末で99%の方が入居しているという状況。復興のスピードに差が出来てしまっている。	避難者支援
168	いわき地域	意見発表者	双葉郡から避難されている方といわき市に元々住んでいらっしゃる方のいわゆる軋轢というのもあると思う。これは時間をかけて解決する問題であると考え。	避難者支援
169	いわき地域	意見発表者	震災後、市内観光交流人口が減少している。来年6月に小名浜にオープンするイオンモールに年800万人が来ると予想されているため、その客を町場に巻き込み、観光交流人口を増やしたい。	観光・交流
170	いわき地域	意見発表者	色々なイベントを仕掛けているが、それにより交流人口が増えるという訳では無いということが非常に難しく、悩んでいる。	観光・交流
171	いわき地域	意見発表者	今まで小名浜にいらっしゃっていた方とは違った方にも関心を持っていたきたいという思いで、アニメーション「人力戦艦！？汐風澤風」も制作している。しかし、どうすれば多くの皆さんに目にしていだけるのかという点で難しい。	観光・交流
172	いわき地域	意見発表者	いわきFCのスタジアムを小名浜港に作ってほしいと考えている。スタジアムとイオンモールとの相乗効果で、新たなまちづくりをすることにより、観光交流人口を増やしていきたい。	観光・交流
173	いわき地域	審議会委員	いわき市内は現在でも交通渋滞がひどい状況。イオンモールの開発がある中、道路状況が整っていなければ道が詰まってしまう。それをどのように解消していくかが課題。	インフラ復旧・整備

174	いわき地域	意見発表者	小名浜にイオンモールが開発される中、アクアマリンパークを中心に約4千台を超える駐車場台数が整備される予定だが、本当に足りるのかという問題もある。	インフラ復旧・整備
175	いわき地域	意見発表者	小名浜に完成するイオンモールでは約2千人の方が新しく従業員になると聞いているため、通勤ラッシュの問題が懸念される。また、市内において、従業員の争奪戦にならないかを危惧している。	インフラ復旧・整備
176	いわき地域	意見発表者	植樹やタイムカプセルの埋設によって、防災緑地そのものが、地域の中で自分達が親しみやすい場所として、あるいは記念になる場所として子供たちに印象付けられれば、その地域の中で資源としても生きてくると考える。	地域づくり
177	いわき地域	意見発表者	本県の沿岸漁業は震災後、自粛を余儀なくされており、現在は試験操業に取り組んでいる。消費地市場では、水揚げ量が多くないためか、他市場と比較し、そんな色ない価格で取引されている。	農林水産業
178	いわき地域	意見発表者	今後の取り組みとして必要なのは試験操業の水揚げ量の拡大である。試験操業が拡大し、本格的な操業再開に向けては、風評対策の充実と本県産品の常磐物ブランド力の強化が不可欠。	農林水産業
179	いわき地域	意見発表者	風評の払拭やブランド力の強化には、安全性についての情報提供と効果的なPRが必要。消費者に本県産品を安心して食べてもらうために、行政には、正確な情報発信、情報提供はもちろんのこと、風評対策につながるような取組を展開してもらいたい。	風評・風化
180	いわき地域	審議会委員	海外の方がどのように情報にアクセスするのかというと、基本的にはローマ字、その母国語で検索する。その際にヒットする情報は日本が発信したいイメージとギャップがある。今後インバウンドに対応していかなければいけない時等には、インターネットの情報戦略にも取り組んでいくことが必要。	観光・交流

(2)懇談テーマ2(県全体の課題) 結婚・出産・子育てに関する課題や取組、方向性など

No	地 域	発言者	意見等	分 野
1	県北地域	意見発表者	男性が消極的であると思う。婚活イベントの前の講座の参加率も悪い。また狭い地域だけだと参加しにくいというもあるので広域的に出会いの場を作ることも必要。子どもが減ってからでは遅いので早急な対応が必要。	結婚・出産・子育て
2	県北地域	意見発表者	仕事中に子ども園からの呼び出しがあつて仕事ができないお母さんが多く日中も病児を預かってくれる場所が必要。あつても知らない人も多い。	結婚・出産・子育て
3	県北地域	意見発表者	地域毎に子育てに対する支援体制が違い情報がなく不安を抱えている人も多い。子育てする方の不安を少なくするための包括的な仕組みが必要。	結婚・出産・子育て
4	県北地域	意見発表者	教育保育機関は多くの労力や専門知識が必要であるが保育士のなり手が少ない。保育士の処遇改善などが課題。	結婚・出産・子育て
5	県北地域	意見発表者	父母については親となる教育をすることや親が子どもと関わることのできる環境づくりが必要。	結婚・出産・子育て
6	県北地域	意見発表者	障がい児には専門家による支援と早期の療育が必要。特に発達障がいの検査機関である発達障がい者支援センターは10ヶ月待ちの状況でありその後の療育に遅れが出ている。	結婚・出産・子育て
7	県北地域	意見発表者	支援学校で自立のための職業訓練を実施している。自分の事業所でも受入をしているがこういった生きる力を育てる教育の充実が必要。	結婚・出産・子育て
8	県北地域	意見発表者	世話好きのおばさんが昔に比べて減ったこともあるが自分で相手を見つけれない男性が多い。明確な生き方を持った頼りがいのある男性が多くなれば結婚も増えると思う。	結婚・出産・子育て
9	県北地域	意見発表者	男性が弱い。会社に入ってもコミュニケーションがうまく取れない人が多い。友達も少ない。婚活イベントの募集をかけても参加しないし、強制的に参加させるような取組みもしている。やってもだめだったではなく、繰り返すこと、継続することが重要。すぐに結婚につながらなくてもみんなで集まって会話が出来る場を作ることが必要。	結婚・出産・子育て
10	県北地域	意見発表者	子育てで困るのは子どもを見てくれる場がないこと。お金で解決する問題ではない。地域で子どもを見てくれる場があればよい。集会所などで高齢者と子どもをマッチングする場を作れば、高齢者のいきがいにしなるし、子どもは地域に馴染めるきっかけとなる。	結婚・出産・子育て
11	県北地域	意見発表者	産みたくても産めない夫婦もいる。不妊治療にはとてもお金がかかり、負担である。	結婚・出産・子育て
12	県中地域	意見発表者	結婚・出産・子育てを経験していないが、やはり出産・子育てに不安を感じる。地域に病院が少なく子どもを預けられる人も近くにいない。また、産休や子育て休暇を取得できる職場環境が整っているのかという不安もある。	結婚・出産・子育て
13	県中地域	意見発表者	地元には高校がないこともあり、高校生等が集まるコミュニティがないため、地元の外に目が向いている。高校生等が集まる場を提供することが必要。	地域づくり
14	県中地域	意見発表者	食育の関係で、地域の親子と高齢者や障害を持つ方と一緒に活動したことがあった。子どもにとって普段関わりがない方と関わることでいろいろなことに気づき、地域との接点も生まれてくる。子育ては地域も関わり、一緒になってやっていくことが必要。	結婚・出産・子育て
15	県中地域	意見発表者	子育て世代は、食に対する関心が高いため、地域農産物等について学べるよう地域の飲食店等と連携し、農産物を使ったメニューを提供している。このような取組は重要。	結婚・出産・子育て
16	県中地域	意見発表者	仕事と家庭の両立のためには、社員一人一人が助け合う職場づくりが必要。	結婚・出産・子育て
17	県中地域	意見発表者	近年ワークライフバランスという言葉が使われ始めたが、この言葉をきっかけに社会全体が変わっていくことを願っている。そのためには意識改革やセミナー等の啓発活動が必要。	結婚・出産・子育て

18	県中地域	意見発表者	育児・介護休暇を社員が取得した場合、会社としてどのような体制を補っていくかというのが今後の課題。	結婚・出産・子育て
19	県中地域	意見発表者	支援制度は充実しているという印象を持っているが、その情報を入手するのが大変。情報発信の仕方に工夫が必要。例えばアプリ等で支援制度一覧が検索できるようにするなど。	結婚・出産・子育て
20	県中地域	意見発表者	地域コミュニティに新たに入るのはストレスがかかる。県外から地元に戻った方のコミュニティ等があれば助かる。	定住
21	県中地域	意見発表者	都市部から地元に戻りたいが、都市計画の関係で地元之家を立てることができないという話を聞く。地域のニーズを再確認し、都市計画等の見直しにより柔軟に対応する必要があるのではないかな。	その他
22	県中地域	意見発表者	待機児童ゼロ、少人数教育、地域全体で自分の子どもを見てくれるといった子育てしやすい地域であること、通勤にストレスがかからないことのPRや新しいライフスタイルを提案し、都会の方に対し発信していくのも必要。	定住
23	県中地域	意見発表者	若い世代に対し子育ては大変だということを言うのではなく、むしろ子育てへの喜びを伝えていくことが大切。	結婚・出産・子育て
24	県中地域	意見発表者	子育てに不安を抱えている方がいるが、手がかかるのは生まれてから約10年間であり、その間、PTA、児童クラブ支援員、地域コミュニティがバックアップしていくので、不安を抱えないで欲しい。	結婚・出産・子育て
25	県中地域	審議会委員	地元から外へ出て行っても、戻りやすい環境を作ることも大切。	定住
26	県中地域	審議会委員	昔は高齢者の役割があり、日常的に家族や地域社会との繋がりがあったが、核家族化が進んだ。他にも要因があるとは思いますが、高齢者の認知症などは核家族化が進んだためではないかと個人的には考えている。	その他
27	県南地域	意見発表者	年配の独身者の多くは、所得があり、社会環境等は整っているものの結婚に対して切羽詰っていないと感じる。結婚したくない人に結婚しろと言っても無理。	結婚・出産・子育て
28	県南地域	意見発表者	結婚を希望する人の出会いの場作りとして、マッチング事業を行った。参加者に話を聞くと、結婚はしたいけど出会いが少ないとか、仕事が忙しいとか、今の給料で生活費を工面することができるのか不安だ、との話があった。	結婚・出産・子育て
29	県南地域	意見発表者	福島県内でマッチングできる場があると良いと思う。	結婚・出産・子育て
30	県南地域	意見発表者	核家族化が進み、仕事と子育てを両立するためには、保育園や幼稚園に通わせなければならない。フルタイムで働く人は、出産や子育てのためにキャリア形成を途中断念せざるをえない。いったん家庭に入り、復職しようとしても、同じ地位に戻れないという現状がある。	結婚・出産・子育て
31	県南地域	意見発表者	新卒者は、条件面で就職先を選択することも確かにあると思うが、企業に定着させるには、この会社は面白そうだと思わせ、将来が考えられる安定性や受け入れ体制等についての施策が必要。	産業・雇用
32	県南地域	意見発表者	海外からのインターンシップを積極的に受け入れる等により、就職の一つの売りにもできると思う。	産業・雇用
33	県南地域	意見発表者	結婚する人が少なくなった要因は、生活が便利になったこともあると思う。今は、男性が何でも一人ででき、結婚する必要がないという話を聞く。結婚や出産は、誰かと一緒にいることに楽しみを見いだせないで難しい。	結婚・出産・子育て
34	県南地域	意見発表者	就業時間が長くなると、出会いの機会も趣味を楽しむ時間もなくなる。趣味を通じた出会いや繋がりができるかもしれないので、趣味の時間が少なくなるのは心配。	結婚・出産・子育て
35	県南地域	意見発表者	昔に比べると行政の子育て支援は手厚くなったが、子供を1人育てるのに多額のお金が必要となると一歩が踏み出せない人もいる。	結婚・出産・子育て
36	県南地域	意見発表者	子育てしている女性がフルタイムで復職できても、突然の休暇取得に対し職場は冷たい雰囲気になることがあると聞く。	結婚・出産・子育て

37	県南地域	意見発表者	首都圏と違い大学生等がいないので、土日や夜は大学生、平日昼間は主婦のようなワークシェアリングができない。それも子育て中の主婦が職場に復帰できない理由の一つ。	産業・雇用
38	県南地域	意見発表者	ヨーロッパでは、男性、女性それぞれが週4日働き、週3日休むことで、一週間に6日子育てできるというワークシェアリングをしている。そういうシェアリングができれば少し変わってくるだろう。	産業・雇用
39	県南地域	意見発表者	働くところが沢山あり、それなりに給料貰えて生活しやすい場所を求める人もいれば、田舎が好きという人もいれば、生活しやすいところがいいという人もいて、これは価値観の違いだと思う。	定住
40	県南地域	意見発表者	私の知り合いの多くは実家に住んでいない。大人と関わるのが面倒くさいというのが理由のようだ。それは私の世代が、小さいころに大人との関わりが少なかったため。近所との関係もなければ戻ってきたいと思わないだろう。	結婚・出産・子育て
41	県南地域	意見発表者	核家族化していくことで子どもが親以外の大人と付き合うのが面倒くさくなる。色々な大人と接する機会を作ることが必要。子どもが色々な大人と接することができる活動が必要。	結婚・出産・子育て
42	県南地域	審議会委員	3歳までの教育や子育てが脳の発達にとって最も大切だと言われている。3歳までに本能的に良いことを覚えなければならぬ。その環境を作ることが難しいのだが、とても大事。	結婚・出産・子育て
43	県南地域	審議会委員	子育てには、間接互惠性ということが大事と思っている。親切にされたら、その親切を他の人に親切で表すもの。そのように考えられる子どもが沢山いたら素晴らしい地域になると思う。	結婚・出産・子育て
44	会津地域	意見発表者	県の宝として子どもを育てていくことに力を入れてほしい。しっかり教育をし、地域に対する愛着を育てることができれば、いったん地元を離れてもいつかは戻ってくる可能性がある。	教育
45	会津地域	意見発表者	卒業した大学などのある場所にいきなり下ろす人が多いが、高校の時にどれだけ良い思い出があったかによって、地元へのいきなり下ろしてくれると思う。	定住
46	会津地域	意見発表者	少子化と未婚の課題を背景に、高校生に本物の結婚式をプロデュースさせる事業を行う。子どもたちを参加ではなく、参画させることが重要。	結婚・出産・子育て
47	会津地域	意見発表者	昔は、近所の人が、子どもたちにそれはダメと言ったり、子どもを預かってくれるなどの連携があったが、今はほとんどない。	地域づくり
48	会津地域	意見発表者	結婚はするが子どもを持つことに対して不安を持つ声を聞く。	結婚・出産・子育て
49	会津地域	意見発表者	人口減少で企業に人が来ないという前に、まずは辞める人を減らすべきである。	産業・雇用
50	会津地域	意見発表者	共働き世帯は、近所との関係が希薄になってくる。また、女性が忙し過ぎて出産率が上がらなくなってくる。その辺は、10年、20年のスパンが必要になると思うが、可能であれば子どもの人数により補助があると良いのではないかな。	結婚・出産・子育て
51	会津地域	意見発表者	子どもを大学に進学させるための経済的な不安からあと一人は増やせないと言う話を聞く。そのような理由で子どもを増やせないのは少し切ない。	結婚・出産・子育て
52	会津地域	意見発表者	結婚を希望する方への出会いの場作りだけではなく、結婚を希望する方を増やすことが実は大事なことのではないか。	結婚・出産・子育て
53	会津地域	意見発表者	子どもができると親として成長する。何を子どもたちに残していきたいか、学校の統合に関しても、どんな学校を作っていきたいかを真剣に考える。どんな教育を与えたいのかを本気で考える。	結婚・出産・子育て
54	会津地域	意見発表者	子どもに地元に戻ってきてもらうためには、親が誇りをもって地域で暮らすことが大事。地域を楽しむようにしている。	定住

55	会津地域	意見発表者	仕事をする親の姿を見せるのが、子どもにとって一番大事なことだと思っている。	教育
56	会津地域	意見発表者	食育に敏感な親が多い。体に良い食材を使った給食を出すなどの取組をすれば、他の地域からの移住者も増えるのではないかな。	定住
57	会津地域	意見発表者	結婚しろ、子どもを産め、自然減を減らせというのはモラルがあつてなかなか難しいと思う。人に言われれば言われるほどやりたくなるのではないかな。	結婚・出産・子育て
58	会津地域	意見発表者	人口減少対策だけを考える時に、結婚と子育て支援の話だけではなく、地域を維持していくのに必要な人口を考えることも必要ではないかな。	結婚・出産・子育て
59	会津地域	意見発表者	子育て経験者を集めて、ワーキングチームを作り、有効な施策を考えていく必要があるのではないかな。	結婚・出産・子育て
60	会津地域	意見発表者	結婚を希望しない理由を分析する必要があるのではないかな。人生の選択肢が結婚によって狭まれると思っているのであれば、それに対する対策が必要。	結婚・出産・子育て
61	会津地域	意見発表者	スウェーデン、フィンランドの一人あたりの教育コストは高く、少ない人口で国を守っていくことが明確に打ち出されている。教育とは、今まで人口が増えてきた高度経済成長時の考え方ではなく、問題を自分で発見して解決する人を増やしていく必要がある。	結婚・出産・子育て
62	会津地域	意見発表者	先進国で出生率があがっているところは、多くの場合、結婚と出産が結びついていない。そのような現状を踏まえつつ、政策を練っていくのが良い。	結婚・出産・子育て
63	会津地域	審議会委員	結婚、出産は極めて個人的なことであり、行政として一人の尊厳をコントロールできる問題ではない。また、少子化問題に対して今まで様々な施策が行われてきたが、その成果は出せていない。	結婚・出産・子育て
64	南会津地域	意見発表者	自治体の子育て支援制度が全てではないが、子どもをつくるひとつのきっかけにはなっている。	結婚・出産・子育て
65	南会津地域	意見発表者	南会津地域では出産はどうしても若松の病院になってしまう。夜中や冬でも若松まで行く必要があり、不便である。	結婚・出産・子育て
66	南会津地域	意見発表者	婚活パーティーは始めの頃より質が低下している。女性は無料の場合冷やかして参加したり、それを分かっている男性もドンチャン騒ぎをして終了ということになっている。もう少し知性があり格好良い感じで異業種交流のような職業的な色を加えるなど工夫すればよいのではないかな。	結婚・出産・子育て
67	南会津地域	意見発表者	保育所が18時で終わってしまう。18時以降に仕事がある人もおり、時間帯をずらした行政からの人的支援があればありがたい。	結婚・出産・子育て
68	南会津地域	意見発表者	今後、人口を増やすことは難しいと思われるので、人口規模に合わせて活動をスリム化していくことが大事だと感じる。人口が減っているのにやらなければならないことばかり増えていることは改善していかなければならない。	結婚・出産・子育て
69	南会津地域	意見発表者	結婚は自然なものであり、何歳だから結婚しなければならないというものでもない。結婚したい人がいれば結婚するのであり、その町の子育てのしやすさなどは考えないのではないかな。	結婚・出産・子育て
70	南会津地域	意見発表者	行政は若者を外に流出しないように囲うような発想があるのかもしれないが、一回外に出て勉強して感覚を良くして帰ってくればよい。若者はいったん外に旅立たせた方が地域にとってよい結果になるのではないかな。地域を比較して見ることは大事。外を知らないとは中分らない部分がある。	結婚・出産・子育て
71	南会津地域	審議会委員	オーストラリアでは産前産後のリハビリテーションプログラムがあるが、日本では行われていないので、そのようなものが必要だと感じている。	結婚・出産・子育て
72	南会津地域	審議会委員	リハビリの仕事など流産の可能性が高い職能団体に対して、何らかの支援や手当が必要だと感じている。	結婚・出産・子育て
73	相双(相馬)地域	意見発表者	後継者不足により商店が途絶えてしまうことも考えなければいけない。委託事業や補助事業があればよいと思う。	産業雇用

74	相双(相馬)地域	意見発表者	プレミアムフライデーを利用して自然に出会える場が提供されるとよい。	結婚・出産・子育て
75	相双(相馬)地域	意見発表者	子どもが社会に出るときに福島に残ってもらえることが人口減少対策のひとつだと思うので魅力ある福島をつくってほしい。	結婚・出産・子育て
76	相双(相馬)地域	意見発表者	待機児童が地元自治体に数多くいる。これでは母親は働くことができない。人手不足と働き手が働けないジレンマを感じる。	結婚・出産・子育て
77	相双(相馬)地域	意見発表者	震災後の多くの支援がある中で育ったことにより、困難に立ち向かう強さがなくなっており、一歩つまずくと引きこもりになる可能性がある。子育て支援の体制づくりが大事。	結婚・出産・子育て
78	相双(相馬)地域	意見発表者	町コンで地元店を利用すると人が集まらない。地元で話が広まると恥ずかしいと感じるのではないかな。婚活を県で行う場合は、男性が他の地域に行く、女性を他の地域から募集するなどの工夫も必要。	結婚・出産・子育て
79	相双(相馬)地域	意見発表者	地元で大学、専門学校がないため遠くの学校へ行くが、大学がここにあれば他所の地域から生徒が来る。相双へ大学などを誘致して、子どもの時から移住させるのがいい。	定住
80	相双(相馬)地域	意見発表者	ワークライフバランスの推進は企業内だけでの取組では浸透しにくく、地域全体の理解が必要。	産業・雇用
81	相双(相馬)地域	意見発表者	町コンを行ったが、参加女性が少なく1回のみで終了した。2回目以降継続すれば良かったと反省している。	結婚・出産・子育て
82	相双(相馬)地域	意見発表者	出産、子育てには、ファミリーサポートの存在は重要、子どもを預けるシステムがあれば、母親に自由な時間ができ、子育てに余裕が生まれる。	結婚・出産・子育て
83	相双(相馬)地域	意見発表者	子どもに対し地域への思いを持ってもらいたいと思い活動している。子どもはすぐに大きくなるのでスピード感をもって取り組むことが必要。	結婚・出産・子育て
84	相双(相馬)地域	意見発表者	結婚、出産、子育ての担当課がバラバラな自治体がある。結婚から子育ては繋がっている存在であるが、縦割り行政であり、横の繋がりが弱い。なんでもやる課があってもいいのではと思う。	結婚・出産・子育て
85	相双(相馬)地域	意見発表者	地域に戻りたいと思う子どもがいても、親がストップする。文句も言うのも親、遅いかもしれないが親の教育をしなければいけないと感じる。	定住
86	相双(相馬)地域	審議会委員	結婚から子育ては、一つ一つがバラバラではなく繋がっている。価値観が多様化しているので、家庭、地域、行政でそれぞれ取り組んでいく必要がある	結婚・出産・子育て
87	相双(相馬)地域	審議会委員	結婚、出産、子育てに関して、「婚活」と前面に出されると女性は抵抗感がある。個人の思いと対応策が掛け離れていると感じる。結婚は豊かな暮らしの選択肢として、意識付けを広げていくことが大事だと思う。	結婚・出産・子育て
88	相双(相馬)地域	審議会委員	出産に関しては、医療施設の不足は不安を感じる。この地域で出産、子育ては勇気のいること。	結婚・出産・子育て
89	相双(相馬)地域	審議会委員	子育てに関しては、地域で育てる大切さを感じている。子どもには将来を押しつけないように、いろんな選択肢を増やすという視点で、県の計画に取り組んでいきたいと思う。	結婚・出産・子育て
90	いわき地域	意見発表者	私の地域では人口が少なくなっており、同級生のいない子供もいる。保育園や小学校においては、少人数であれば目が一人一人届きやすく、勉強するのは良い環境だと思うが、今後さらに子供が減少し、同級生、下級生もいない状況になれば社会への適応が心配。	教育
91	いわき地域	意見発表者	いじめられて不登校になるような子供達を、過疎化で人口が少なくなっているような小学校に連れてくるなどすれば、子供達にとっては新しい友達ができ、町には住む人が増えて、好循環になるのではないかな。	教育

92	いわき地域	意見発表者	出産や子育てに関する不安や負担の軽減のため、悩み相談や情報提供等の事業を県で行う事は素晴らしい。しかし、そこにも行き届かない人があるという所が課題。相談に来れる方はまだいい方であり、本当に困っているのはそこに辿り着かない方や、悩みを持っていても相談できる場がない方である。	結婚・出産・子育て
93	いわき地域	意見発表者	県の低所得者への結婚新生活支援事業は役立つと思う。しかしながら、低所得のまま結婚や出産をしていて子供を満足に育てられなかったり、親子ともども困窮しているという事態を見ていると、結婚に踏み切れない方への支援も大事だが、子供を産んで育てる為の経済的支援も必要ではないかと感じる。	結婚・出産・子育て
94	いわき地域	意見発表者	中小企業は大手企業と異なり、出産を終えた方々のサポート、ケアを手厚くできないため、県に側面支援していただきたい。	産業・雇用
95	いわき地域	意見発表者	【助成金等の制度条件の緩和】 次世代育成支援企業認証等により、子育て支援をする企業に対し、金銭的な支援をするという部分は非常にありがたいが、中小零細企業の実態に合わせて、認証要件の緩和をしていただきたい。中小零細企業であれば、女性職員が結婚により県外転出もある。新規採用者の3年後離職率20%は軽く超えてしまうことがあるし、そもそも非正規社員でなく正規社員として採用するという企業努力をしているところもある。	産業・雇用
96	いわき地域	意見発表者	【有職子育て女性支援】 子育て等の福祉的支援を誰でも受けられるという環境は非常に重要だが、企業に所属しながら育児をしているからこそ、より一層メリットがあるような支援をお願いしたい。例えば、企業に所属している子育て女性が受けることのできるビジネスウーマン向けのファミタンサービスとして、整体やエステ等の身体的ケア、レストラン等の嗜好的ケア、土日や残業時の託児サービス無償利用等の就業ケア、「ファミタンビジネスウーマンサポート」のような新たな施策を立ち上げ、企業に所属する有職子育て女性を少しでも支援してもらえる取り組みを強くお願いしたい。	産業・雇用
97	いわき地域	意見発表者	【子育て女性を抱える企業への支援】 出産を控えているスタッフが突然入院を余儀なくされることもある。現在は会社の自己財源で東京の秘書サービス会社に業務委託するなどして対応しているが、そのような産休育休以外の突発的な人材不足に対応できるような、人材センターなどでの人的支援をお願いしたい。	産業・雇用
98	いわき地域	意見発表者	【女性リーダー育成】 中小零細企業の女性経営者や女性起業家自身が出産できる環境づくりも非常に重要。ワークライフバランスの大手企業向けセミナー以外にも、中小零細企業、もしくは女性起業家向け、女性のリーダー育成の為のメニューを増やしていただきたい。	産業・雇用
99	いわき地域	意見発表者	従業員が出産・育児しやすい環境を作っていきたい。現在、出産・育児休暇を取る職員のカバーは他の職員で行い、育児サービスに対する財源は全部会社の持ち出しで行っているが、それに対して行政の支援があると良い。	産業・雇用
100	いわき地域	意見発表者	出産休暇や介護休暇を取得した方達が戻ってこられる環境づくりが、女性の社会進出を後押しする。	産業・雇用
101	いわき地域	意見発表者	男性の育児休暇取得に対しての後押しをいただきたい。	産業・雇用
102	いわき地域	意見発表者	未婚の男性対策をお願いしたい。	結婚・出産・子育て
103	いわき地域	審議会委員	近所の方同士が子供の預け合いをするという助け合いが今の世の中ではできなくなっているため、働く母親を応援しなければいけない。	結婚・出産・子育て
104	いわき地域	審議会委員	子育て支援者に対する行政の予算が無く、子育てしている人を助けたいという人と助けて欲しい人を結ぶ場所や機会に対する支援も無い状態。子育て支援者を応援する資金等の支援があれば良い。	結婚・出産・子育て
105	いわき地域	審議会委員	育児を応援する保育士も不足している。	結婚・出産・子育て

106	いわき地域	審議会委員	子供にとって、最後には保育者よりも親である。仕事も大切であり、仕事をしながら子育てをするのは大変だが、親子の時間も大切にしたい。	結婚・出産・子育て
107	いわき地域	審議会委員	小さい頃から生まれ育った親子関係と、地域から愛されたという気持ちが、将来地元に戻ってきて地域のために働きたいという気持ちにつながると思うので、子供と大人との絆づくりも事業で進めていきたい。	結婚・出産・子育て
108	いわき地域	意見発表者	被災者支援活動をしている際、頼まれて、子育て世代のママサロンを行った。期間中、2人の方が妊娠されたが、1人が流産をしてしまった。要因として、避難前とは異なる狭い借り上げ住宅の中で両親と同居したことによるストレスが多かったことも挙げられるようだった。	避難者支援
109	いわき地域	意見発表者	いわき市で行われた婚活パーティに参加したスタッフに良い相手が見つかり、交際するようになったという例がある。	結婚・出産・子育て
110	いわき地域	意見発表者	婚活パーティに女性はなかなか集まりにくいという現状がある。	結婚・出産・子育て
111	いわき地域	意見発表者	出会いの場が少ないと思う。最初に出会いが無ければ結婚は出来る訳がないので、そういった場を作ってあげる必要がある。	結婚・出産・子育て
112	いわき地域	審議会委員	出会いには建前が必要。結婚をしたいから結婚相手を探すとすると、常にその観点でしか人を見られなくなり、条件的に見てしまう。しかし、結婚し生活するとなれば、相手の悪い条件等を受け入れるような想定をしなければいけないので、いかにそういった状況、仕掛けを作るかが重要。	結婚・出産・子育て
113	いわき地域	審議会委員	婚活パーティ等の出会いの場に参加して成功している例は非常に少ない。要因としては、相手を条件的に見てしまい、なかなか最終的なところまで見通せないということが挙げられる。	結婚・出産・子育て
114	いわき地域	審議会委員	コミュニティの中核的な場を作り、それぞれのコミュニティの属性毎に人が絡み合うようにするなど、出会いの建前が生まれやすいような出会いの場があると良い。	結婚・出産・子育て
115	いわき地域	意見発表者	婚活パーティは実施する場所が大事。人が集まりやすい場所で実施するという工夫があると良い。	結婚・出産・子育て
116	いわき地域	意見発表者	自分が母親として子育てしていた時は、自分以外にも、地域の大人が愛情を持って、一緒に子育てを支援してもらった記憶がある。現在は地域の大人の愛情が減り、親が子供にかける愛情が増え、親への負担が大きくなっていると感じる。地域の大人が子育てを支援できる機会が身近にあれば良い。	結婚・出産・子育て
117	いわき地域	意見発表者	漁業者も朝が早い仕事で、出会いの場が少ないので、独身男性が多い。行政が出会いの場を設ける取組を行って欲しい。	結婚・出産・子育て
118	いわき地域	意見発表者	漁業の担い手や船に乗る乗り子不足には、所得向上はもちろん、ワークライフバランスを踏まえた就業環境への改善により漁業が魅力的な職業に代わる必要がある。	結婚・出産・子育て
119	いわき地域	意見発表者	若者の地元定着、所得安定には、給与等の条件が良い企業の誘致や若者向け娯楽施設の整備、子供を育てたいと思う環境の整備を行い、いわきでより多くの若者が生活していきたいと思うような取組が必要。	結婚・出産・子育て